



文学部



日本語 教員



養成コース



ことばと文化、
心を伝え合う



文教大学

～実践を重んじた日本語教育の学びの場～



文学部 外国語学科
日本語教育研究室
主任 荒井 智子



文教大学の日本語教員養成コースは、1987年に文学部の発足と同時に作られました。文学部に所属するすべての学科の学生はこのコースを履修することができます。

1年次では日本語教育の基礎、2年次では教え方の基礎、3年次では教え方の実際を学び、そして4年次ではより高度な実践を通して、日本語教師として必要な資質を磨いていきます。本コースに登録し、授業を履修して必要な単位数を修得することで「1級（主専攻）」「2級（副専攻）」「2級」のいずれかの資格を取得することができます。

令和6年度から「登録日本語教員」という日本語教師の国家資格が創設されました。文教大学で「1級（主専攻）」「2級（副専攻）」を取得すると、国家資格に必要な2つの筆記試験のうちの1つと実践研修（実習）が免除になり、資格取得への近道となります。

本学の特色は日本語教育実習を重視していることで、3年次にシドニー実習、中国実習、4年次には本学の留学生別科、韓国極東大学校の学生を対象とした実習があります。また、地域の外国人を対象とした本学主催の「外国人のための日本語講座」（夜学）や、地域の日本語ボランティア教室である「まつぶし日本語ひろば」などの実践の場が設けられています。中国実習は、2009年度から毎年、国際交流基金の「日本語パートナーズ派遣プログラム（大学連携インターン）」等に採択されています。

日本語教育を学んでいる学生たちは、課外活動として小・中学校での外国人生徒への日本語ボランティアや地域の日本語教室のボランティアなどに参加したりして、外国人との交流を深めています。このような活動が将来、日本語教育に携わっていくうえで、とてもプラスになっています。

日本語教育の魅力は、グローバル化した現代社会において、世界中で活躍できることです。また、様々な文化背景を持つ人たちとの「出会い」の中から日本語や日本を見つめ直し、新たな気づきや発見をし、人間的にも成長することができます。異文化を理解し、受け入れていくことは自己の成長の証でもあります。

本学はこれまで建学の精神である「人間愛」に根差した教育を行ってきました。人間愛とは、人と人との互いに認め合い、すべての人をかけがえのない存在として大切にすることです。本コースはこのような教育理念に根差した豊かな人間性を育て、国内外に300名以上の日本語教師を輩出してきました。現在、卒業生たちは世界の各地で活躍しています。

基礎科目から実習科目まで充実した授業内容

日本語教員養成コースでは、日本語教員養成において必要とされる教育内容を、基礎的な科目から海外実習まで段階的に幅広く開講しています。日本語教師を目指す人にも目指さない人にも多くの学びがあるコースです。取得した単位数によって日本語教員「1級（主専攻）」「2級（副専攻）」「2級」のいずれかの資格を取得することができます。「1級（主専攻）」「2級（副専攻）」は文部科学省によって認定されています。

	日本語教員1級（主専攻）	日本語教員2級（副専攻）	日本語教員2級
必要単位数	46	26	26
実習の有無	有	有	無

学習領域	開講科目	学年
言語に関わる領域	日本語教育概論Ⅰ	1
	日本語教育概論Ⅱ	1
	日本語教育学Ⅰ	1
	日本語教育学Ⅱ	1
	日本語教育学Ⅲ	1
	日本語教育学Ⅳ	1
	日本語教育学Ⅴ	2
	対照言語学Ⅰ	2
対照言語学Ⅱ	2	
教育に関わる領域	日本語教育法Ⅰ	2
	日本語教育法Ⅱ	2
	日本語教育法Ⅲ	3
	音声教育法	3
	文章教育法	3
	日本語教育特講Ⅰ	3
	日本語教育特講Ⅱ	3
	日本語教育事情	2
	日本語教育教材研究Ⅰ	2
	日本語教育教材研究Ⅱ	3
社会・文化・地域に関わる領域	日本文化基礎Ⅰ	1
	日本文化基礎Ⅱ	1
	言語と社会Ⅰ	2
	言語と社会Ⅱ	2
	言語と心理Ⅰ	3
言語と心理Ⅱ	3	
実 習	日本語教育実習Ⅰ	3
	日本語教育実習Ⅱ	3
	日本語教育実習Ⅲ	4
	日本語教育実習Ⅳ-(1)	4
	日本語教育実習Ⅳ-(2)	4
	日本語教育実践Ⅰ	2
	日本語教育実践Ⅱ	2

日本語教育学の各授業では日本語教育に必要な基礎的な項目を網羅的に学びます。

日本語教育法の各授業では具体的な授業の進め方などを学びます。

日本文化基礎では日本を外から見る視点を養います。

日本語教育実習Ⅰ、日本語教育実習Ⅱでは海外の大学で実習をします。

卒業生の主な就職先

海外：中国、台湾、韓国、ベトナム、マレーシア、フィリピン、アメリカ など

日本：ISI日本語学校、MCA三峰日本語学校、東京日本語研究所、フジ国際語学院、MANABI外語学院、ミッドリム日本語学校、早稲田文化館、さくら国際日本語学院、東亜国際外国学院、東京亜細亜学友会、松戸国際学院、東海学院文化教養専門学校、福島医療専門学校日本語学科、AKK文化学院 など



豊富な実習の場で多様な日本語教育を経験

5つの科目が
用意されています



文教大学では、卒業後すぐに日本語教育現場に立てる人材育成に力を入れており、海外、国内（学内）、地域など、様々な実習の場を経験することができます。

01

日本語
教育実習Ⅰ
(海外)

オーストラリア

シドニー大学

02

日本語
教育実習Ⅱ
(海外)

中国

東北大学秦皇島分校

03

日本語
教育実習Ⅲ
(国内)

韓国

極東大学校の
研修生受け入れ

04

日本語
教育実習Ⅳ(1)(2)
(学内)

外国人留学生
別科

05

日本語
教育実践Ⅰ・Ⅱ
(地域)

外国人のための
日本語講座(夜学)

まつぶし日本語ひろば

01

シドニー実習

日本語教育実習Ⅰ

8月下旬から9月上旬にかけて、ホームステイをしながらオーストラリアのシドニー大学の正規授業に入り、日本語を教えます。現地での実習は2週間ですが、その準備は前年度から始まり、「日本語教育教材研究Ⅰ」では現地で使用される教材について学びます。そして「日本語教育実習Ⅰ」ではオーストラリアに関する学びを深め、教案作成や模擬授業を重ね、教壇実習の準備を行います。現地での授業は日本語で行う直接法が中心ですが、日常生活では英語が必要になります。ホームステイ先や現地の学生との交流で異文化理解を深めることもできます。帰国後は振り返りと報告を兼ねた報告書や動画の作成、学園祭での発表などを行います。大変な分、実りも大きな実習です。



春学期の授業で教案作成や模擬授業をしてしっかりと教壇実習の準備をします。現地では、はじめに授業見学で授業の雰囲気把握したり、学生と交流をしたりしました。次に、先生のアシスタントとして授業に参加し、最後は教壇実習を行いました。先生方にアドバイスをいただきながら、文字の出し方や大きさなど見やすいパワーポイントの作成とわかりやすい授業構成に力を入れました。この実習に参加したことで授業でのコツや日本語教育への理解が深まりました。実際に日本語を学んでいる現地の外国人と関わることで彼らの日本語への認識や考え方などを知ることができました。また、予想以上に友達も沢山でき、とても価値のある楽しく充実した実習でした。

英文4年 夢田優月



授業風景 ▶

▼シドニー大学で



▼お別れパーティー



30年以上の歴史を持つ伝統ある海外実習です。3月上旬の8日間、中国の東北大学秦皇島分校で実習を行います。1学期間に準備した成果を8日間で出し切ります。何度も教壇に立つハードな実習ですが、春節のお祝いムードが漂う街中を散策しながら、提灯で彩られた美しいライトアップを楽しみ、中国の文化にも触れることができます。現地の学生との交流も多く、内容の濃い充実した実習だと評価されています。



▲ 授業風景



▲ 授業風景



中国実習は、秋学期の授業で念入りに準備をし、現地で教壇実習を行います。準備は教科書の分析、教案作成、模擬授業をします。現地では、実際に何度も教壇に立って授業をします。常に実習生同士で意見交換ができ、先生からフィードバックが受けられるため、未経験の方でも安心して取り組みます。実習生“全員で”授業を作りながら実践的な力が身に付けられます。また現地での生活では中国語や中国の文化に直接触れられます。覚えてたの中国語が使えた時には、学習者の立場で喜びが感じられました。中国実習は、教師の立場と学習者の立場を経験できる貴重な機会だと思います。

2024年度日文卒 廣瀬結菜



◀ 活動の様子



▲ 文化交流

秦皇島分校の教室で ▶



03

極東実習

日本語教育実習Ⅲ

韓国極東大学校の学生たちが来日して行う日本研修プログラム内で、約2週間の日本語の授業を実習生が担当します。教科書を使った授業ではなく、プロジェクトワーク型授業を行うのが特徴です。学習者の来日前から学習者の情報等を収集してプロジェクトを設定し、授業の細かな計画を立てます。来日後はプロジェクトワークで使用する語彙や表現を導入したり、活動がうまく進むようサポートしたりします。日本語の教え方だけではなく、ファシリテーターとしての学びも多い実習です。



▲ 修了式の様子



▶ 進行を担当する学生 ▶



極東実習では、来日した韓国の極東大学校の学生を受け入れ、日本語を学びながら実際の日本文化に触れる活動を行います。参加学生は日本語専攻の学生だけでなく日本に興味があり参加した初級の学生もいるため、それぞれの日本語能力に合わせた教え方や関わり方をするよう取り組みました。また、短い時間の中で学生がより日本文化や日本語に興味を持ったり、積極的に発話ができたりするような雰囲気づくりをしました。この実習に参加すると、学習者のレベルに合わせた教え方や韓国語母語話者に対する教え方を学べるのに加えて文化交流をすることもできます。

2024年度中文卒 白根向日葵

04

別科実習

日本語教育実習Ⅳ(1)(2)

文教大学の外国人留学生別科の学生に日本語を教える実習です。90分授業のうち前半45分で教壇実習を行い、後半45分は振り返りと次回の検討を行います。海外実習とは違って学習者の母語はさまざまです。同じキャンパスにいるので、実習以外でも交流できる環境です。



▲ 授業風景 ▶



別科実習では、文教大学留学生別科の留学生に対して授業を行います。通常の実習授業は初級レベルが対象となることが多いですが、この実習は中上級レベルの学習者に対して実習ができます。教材選択、カリキュラム作成から、教案作成をし教壇に立つまで学生同士で意見交換しながら作り上げていきます。上手くできないこともあります。授業後には、学生や先生方からアドバイスをいただけるので、次の授業で改善するべき点も分かりやすいです。実際に、日本語教師として働くこと、プロとして全てのレベルに対応することが求められます。日本語教師を目指している人には、この経験が大きな強みになるので、おすすめです。

2023年度中文卒 黒田由佳

外国人のための日本語講座（夜学）

文教大学の地域連携センターが開講しているオープンユニバーシティの講座の一つです。越谷市周辺に住んでいる地域の外国人の皆さんに日本語を教えることで、生活に密着した日本語教育を経験できます。開講時間が午後6時半からなので、通称「夜学」と呼ばれています。



夜学は、地域在住の外国人を対象とした日本語講座です。10人程度のクラスで、実際に教壇に立ち、表記（漢字）や文法を教えます。事前に授業で扱う教案や資料の作成も行います。慣れないうちは大変な作業ですが、プロの日本語教師の先生方がたくさんのアドバイスや指導をくださるため、教え方だけでなく、日本語教師として必要なことを多く学ぶことができます。授業の合間には、外国人の方々とコミュニケーションを取る時間があり、彼らの国や文化について知る良い機会にもなります。日本語教師を目指している人だけでなく、異文化交流に興味を持っている人にもおすすめです！

英文4年 中村心優

まつぶし日本語ひろば

2009年に埼玉県多文化共生・共栄の一環として、松伏町に日本語教室が誕生しました。これまで松伏町に住む外国人を対象に、松伏町と文教大学のボランティアが楽しく日本語を学べる教室を支えてきました。この「日本語ひろば」は毎週土曜日（10：00～12：00）に開催され、単なる日本語教室にとどまらず、多文化共生社会の実現を目指した活動やレクリエーションを実施して外国の方々と絆を深めています。大学内では学べない新たな学びや発見・気づきが多く得られる実習です。



「まつぶし日本語ひろば」の実習では、外国にルーツを持つ子どもたちや成人学習者の日本語学習支援に携わりました。活動は全体会と個別指導に分かれており、学習者の年齢や日本語レベルに合わせた指導を行います。特に、学習者一人一人の特性を理解し、それぞれに合った支援を提供することを心掛けました。例えば、文字の習得に課題がある学習者には楽しみながら練習できる工夫を施しました。この実習を通じて、学習者の小さな進歩に喜びを感じ、教える側も共に成長できることを実感しました。興味がある方は、ぜひ参加してみてください。

日文4年 齊木那奈

日本語教師として活躍する卒業生

国際交流基金「日本語パートナーズ」台湾9期(国立鳳新高校) 青山 南 (2023年度 中国語中国文学科卒業)

私は現在、国際交流基金の「日本語パートナーズ」というプログラムで台湾に派遣され、活動をしています。派遣先は台湾の高校で、日本語の先生や生徒たちのパートナーとして、彼らと一緒に日本語を学んだり、日本文化を共有したりしています。授業内で月に一度、日本文化を紹介しています。これまでに、かるたやソーラン節、年賀状など、体験型の授業を通じて、日本文化を楽しく伝えることができました。

この活動の最大の魅力は、現地の学校に深く関わることで、台湾の学校生活や文化、先生方の働き方、さらには地域社会をより身近に感じられる点です。台湾の高校で目にするのは、一生懸命日本語を学び、自分の好きなことに全力で取り組む生徒たちの姿です。彼らの純粋な熱意に感動し、新たな価値観を得る日々を過ごしています。

これからも、日本と台湾それぞれの魅力を伝え合いながら、双方の架け橋となる活動を続けていきたいと思っています。



ラプラプセブ国際大学 豊田 辰仁 (2022年度 日本語日本文学科卒業)

「外国人と話したい!」という思いから日本語教育に足を踏み入れ、今ではフィリピンにある大学のインストラクターとして日本語を教えています。主に初級から中級レベルの学生を対象に授業を行いながら、研究活動や日本文化クラブの運営、文化イベントの企画にも携わっています。

日本語教師の魅力は、異なる文化や価値観に頻繁に出会い、それを通じて多くの学びが得られることです。異文化を認め合い、互いに学び合う環境は私自身にとって非常に刺激的です。この仕事を通じて行きたい国に行くチャンスが増えることも大きな魅力の一つです。それから、海外で働いてみることもおすすめします。海外では自分が外国人になり、そこから気付かされるのが山ほどあります。

「百聞は一見に如かず」です!ぜひ日本語教育の世界へ!



ミッドリーム日本語学校 中根 真唯 (2023年度 日本語日本文学科卒業)

私は今、新宿にある「ミッドリーム日本語学校」で日本語教師として働いています。高校時代に日本語教師になりたいと思い、大学に進学してからは日本語教育について学びを深めました。現在の学校では初級や中級クラスを担当しています。様々な国籍の学生がおり、日々楽しく教えています。

日本語教師の魅力は、自分の成長も学生の成長も実感できることです。授業だけでなく、毎日学生と接することでそれぞれの国の文化を知ることができたり、学生からの質問があることで改めて日本語を見つめ直したり、新しい価値観に出会うことができます。また、3か月だけでなく半年など、同じ学生を長く担当することで学生の日本語力向上をより実感することができ、とてもやりがいを感じます。



●文教大学ホームページアドレス / <https://www.bunkyo.ac.jp>

●お問い合わせ / nihongo@bunkyo.ac.jp (日本語教育研究室)